
夜を奪われた天使

ロースト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜を奪われた天使

【Nコード】

N3170M

【作者名】

ロースト

【あらすじ】

天使という存在に夜と羽と赤を合わせるとなんと！なんと”墮天”してしまうっという化学変化。

さあ、また夜の時間が始まったのだ。

天使はその白い翼を広げ、闇に包まれた都市^{まち}を滑空する。

その様は水を得た魚のように、得意げで、喜ばしそうで、慣れたものだった。

誇らしそうに大きく翼を広げ、羽ばたく。

口元には笑みが乗り、心底おかしそうに眼下を見つめている。

月明かりで逆行になり、シルエットのまま宙を一回転

と思ったら逆走、急降下、などと楽しそうに容易く空を舞う。

残滓は羽ばたきの音と宙を舞う軌跡としての羽

美しく、それでいてどこか不気味。

長く、長い夜はそうやっているうちに時間が経ち、終焉を迎える。

だが、本当の終わりではない。

本当の終わりは、次、だから。

また今夜も空舞うことを確信している。

そして夜明け前に天使は落ちる。

だが、再び夜が来ても天使が闇に舞うことなく、空に上ることない。

天使は戒めが強くなり、朝昼を奪われただけではなく、夜までも奪われてしまったから。

夜は天使には来ないのか。

月日が流れ、鎖が解き放たれる。

光を浴びた天使は凶悪で、腐り、錆びた繋ぎでは役目を果たさない。

解き放たれた天使はいつかのように宙を舞う。

自由に、楽しげに滑空し、

誇らしげに、その血に濡れた翼を広げ、

眼下の赤を見つめる。

心底おかしそうに、心底おもしろそうに、爽快な笑顔で嗤う。

最後の夜、赤く染まる景色、闇に包まれる穢れた天使

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3170m/>

夜を奪われた天使

2010年11月10日02時22分発行